

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 自ら取り組み、課題を見出し、粘り強く追及して、問題解決していくことができる。
- 互いに違いや良さを認め、相手を思いやり、共に力を合わせて取り組もうとすることができる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 自ら取り組み、問題解決を目指すことができた。
- 互いの違いや良さを知り、力を合わせて取り組もうとすることができた。

子ども達の実態

- やる事が分かること、安心して取り組むことができる。
- 人や地域と関わる事が好きで、新しい学習への関心が高い児童が多い。
- 学校のルールを守って行動し、相手の気持ちを考えて行動できる様、確かめながら生活している。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 子どものことを第一に考え、一人ひとりを大切にする。
- 学年・学校での連携・協力・支援。

目指す子ども達の姿

- 学び合いの中で、自分の考えを表現し、伝え、自他との違いを知る。
- 学校や地域の人とのつながりを大切にできる。
- 課題解決に向けて、様々な目的や方法を考えることができる。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 互いの違いを認め合い、困りを伝えたり受容したりする居心地のよい学年・学級づくりをする。
- 主体的・対話的で深い学びを視点に、「あたたかい聴き方・やさしい話し方」のステップ表を活用した、「聴く集団づくり」をする。
- なかよし活動（2年生）における他者意識。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- 個性を肯定的にとらえ、それが発揮できる学習展開や支援を行う。
- 個に寄り添った支援や個別最適な学びの充実を図る。
- 学級や学年など豊かな関わり合いから、互いを認め大切にする思いを育む。
- 学習対象、教材、仲間や教師、自己との対話のある授業づくりを行う。
- 児童の願いや思いの「聞く・つなぐ」を大切に、自信と希望をもたせる。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 積極的な情報発信・受信、家庭に開かれた学年づくり⇒積極的な情報発信と多様な情報の受信⇒懇談会等の内容の充実、保護者との連携の強化
- 学校評価の充実と保護者から信頼される学年づくり⇒学校評価の分析と有効活用 ○学年研の充実（教材研究・児童理解） ○Y-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 地域の方との交流学習の推進 ○思いやりの心を育む道徳・人権教育 ○安心して自分を発揮でき、互いを認め合える集団づくり ○体験的な学習
- 発達段階に応じた学習環境整備、可能性を伸ばす教育 ○自分の命を守る習慣と態度の育成 ○情報活用能力の育成 ○汎用的な資質・能力の育成